

パネルディスカッション5

産業保健推進センターと労災病院の有機的連携について

—福岡県医師会の立場から—

山岡 春夫

福岡県医師会常任理事

(平成15年1月31日受付)

要旨：表記の連携について、福岡県医師会の立場から、労災病院の存在する地域の医師会員にアンケート調査を行いました。病・診連携の実態や紹介・逆紹介の状況、産業保健活動について調べ、分析し検討しました。

福岡県内には5カ所の労災病院が、北九州市・飯塚市・大牟田市にあり、その地域のA会員を対象としました。どの労災病院においても病診連携はうまく行われています。

産業保健推進センターに関しては、その存在を「知らない」と回答した会員の多さにとまどいを感じます。

センターと労災病院の連携をはかる上で、両者の存在価値を高めるためにも、さらなる広報活動が必要と思われます。

(日職災医誌, 51: 266—273, 2003)

—キーワード—

医療連携, 労災病院, 産業保健推進センター

1. はじめに

福岡県内には九州労災病院・門司労災病院・筑豊労災病院・大牟田労災病院・総合せき損センターの五つの労災病院があり、産業保健科を設置し企業健診や産業保健に関する講演会の講師派遣、勤労者「心の電話相談」の設置など、それぞれの特色を生かした活動を行っています。産業保健推進センターと労災病院の有機的連携を考える上で、労災病院と医師会員・産業保健推進センターと医師会員の係わりについてアンケート調査を行い、その結果を検討しました。

2. アンケート結果

労災病院のある、北九州市、飯塚、大牟田のA会員を対象として平成14年10月に調査を行いました。対象数は1,212件、回収数724件で回収率は59.7%でした。問1、労災病院に患者を紹介した事がありますか?では、図1のようによく紹介する、時に紹介するが62.3%を占め、病診連携がうまく行われていると推察されます。図2の各医師会での状況を見ると、特に飯塚医師会での繋がりが深いことが判ります。問2、紹介すると回答の場合、その理由について複数回答で見ますと、図3・4の様に全体も各医師会もほぼ同様の回答を得ています。ただ、その他の回答のなかで、患者の希望で紹介が42件、

患者または医師から近いが19件、専門医がいる、専門外来があるが17件などありました。問3、紹介した患者については〔複数回答〕図5・6のように、返事とともに帰ってくる、時々帰ってくるを含めると90%前後を占め、労災病院の努力が伺えます。問4、労災病院からの逆紹介はありますかについては、図7・8のようになっていますが、飯塚医師会では逆紹介があるが51.4%と、ここでも病診連携が進んでいる事が窺えます。次に問5として労災病院の機能については、図9のような回答を得ていますが、その他の回答の中に機能が判らないが41件、科目や専門性の充実を望むが13件、労災病院としてはそぐわないかも知れませんが、小児科の対応を望むが6件認められました。また、問6に産業医としての活動で、労災病院にのぞむ事柄の記載を求めましたが、内容提供や情報交換を希望が6件、研修や指導を期待が5件と労災病院の広報に対するなお一層の努力が求められていると思われます。

つぎに、産業保健推進センターに関するアンケート調査も併せて行いました。推進センターについては、平成13年7月に日本医師会認定産業医および産業医を目指して研修を受けている人を対象にアンケート調査をしていますので、その結果と今回のものと合わせて図示しています。ただ、今回は産業保健に拘っていないA会員にも回答を求めていますので、簡単にその比較は出来な

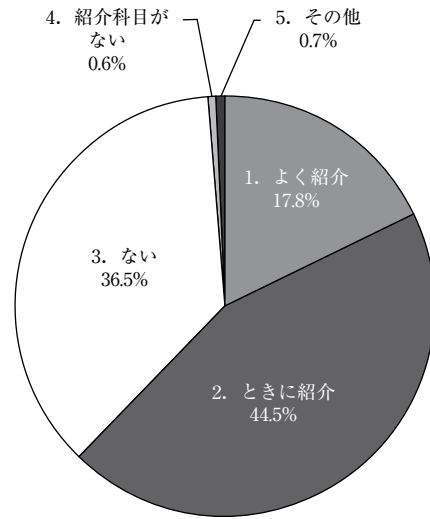


図1 問1. 労災病院に患者を紹介したことがありますか

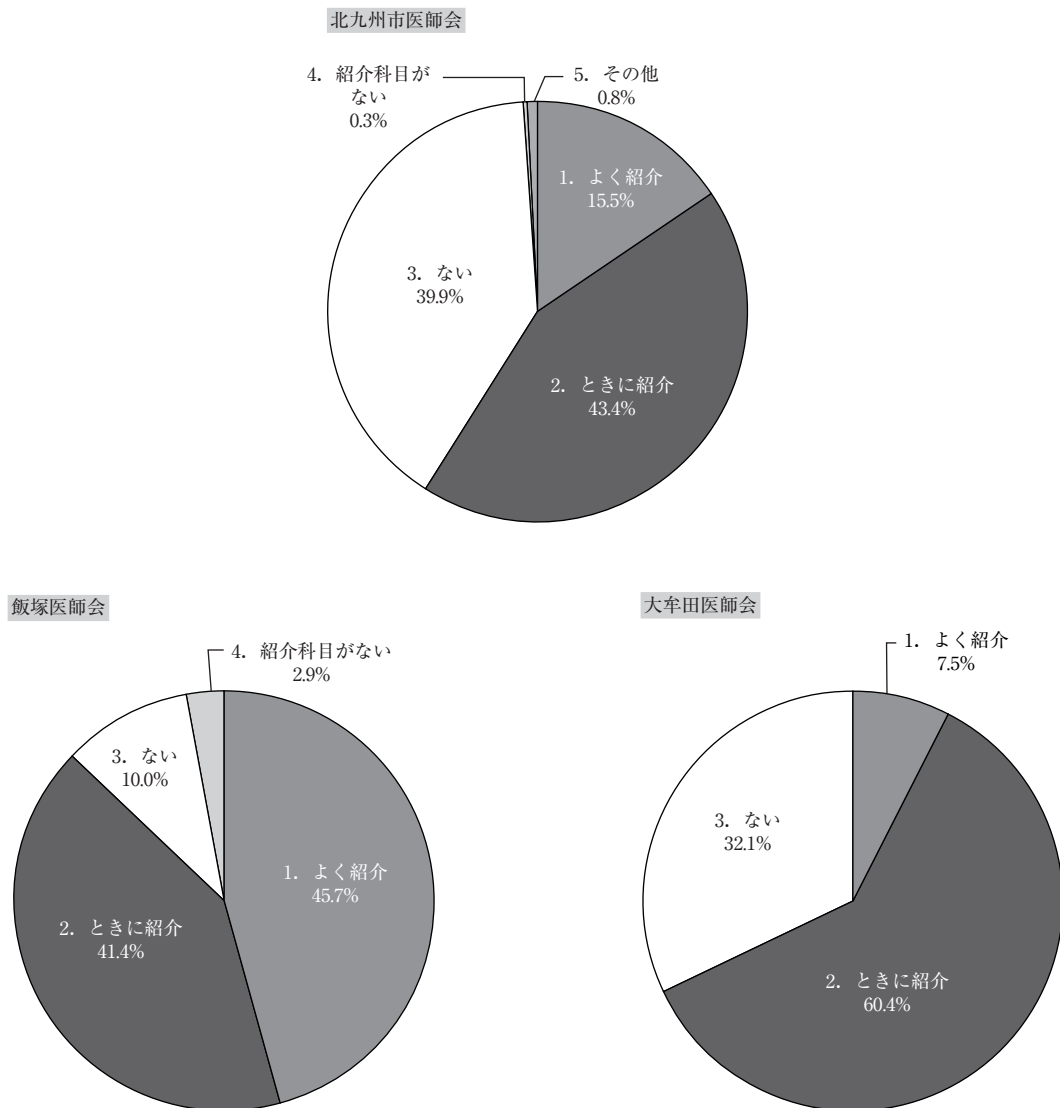


図 2

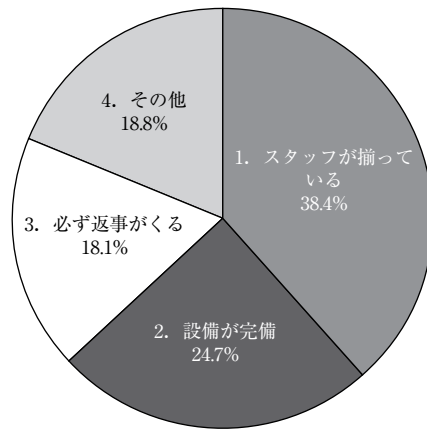
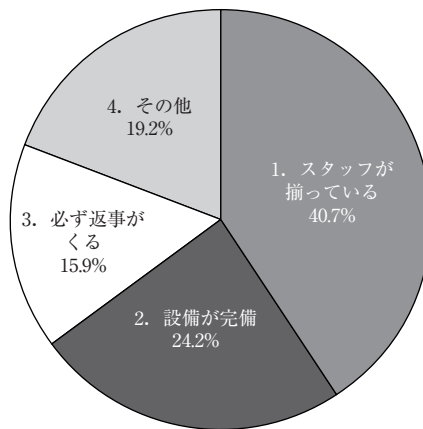
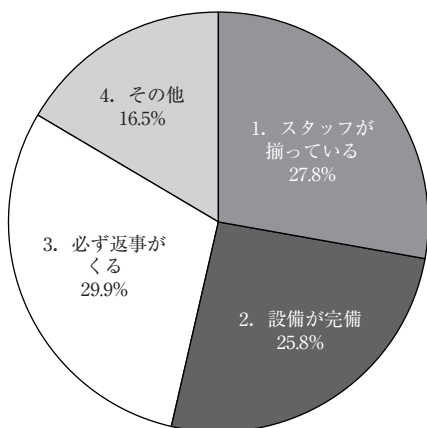


図3 問2. 紹介すると回答の場合、その理由について【複数回答】

北九州市医師会



飯塚医師会



大牟田医師会

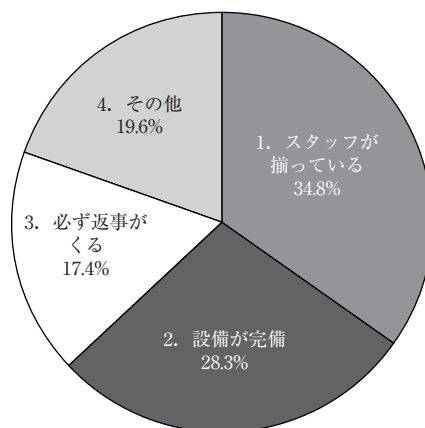


図 4

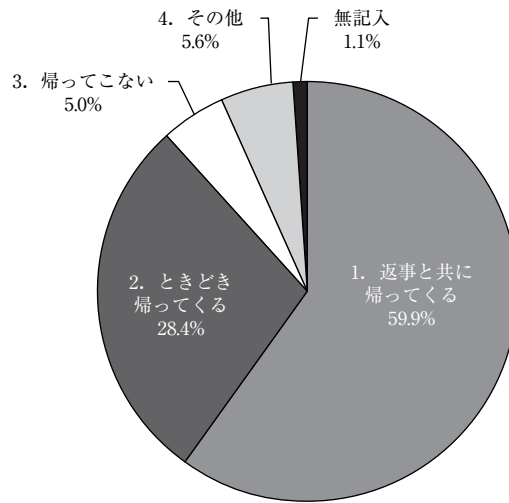


図5 問3. 紹介した患者について【複数回答】

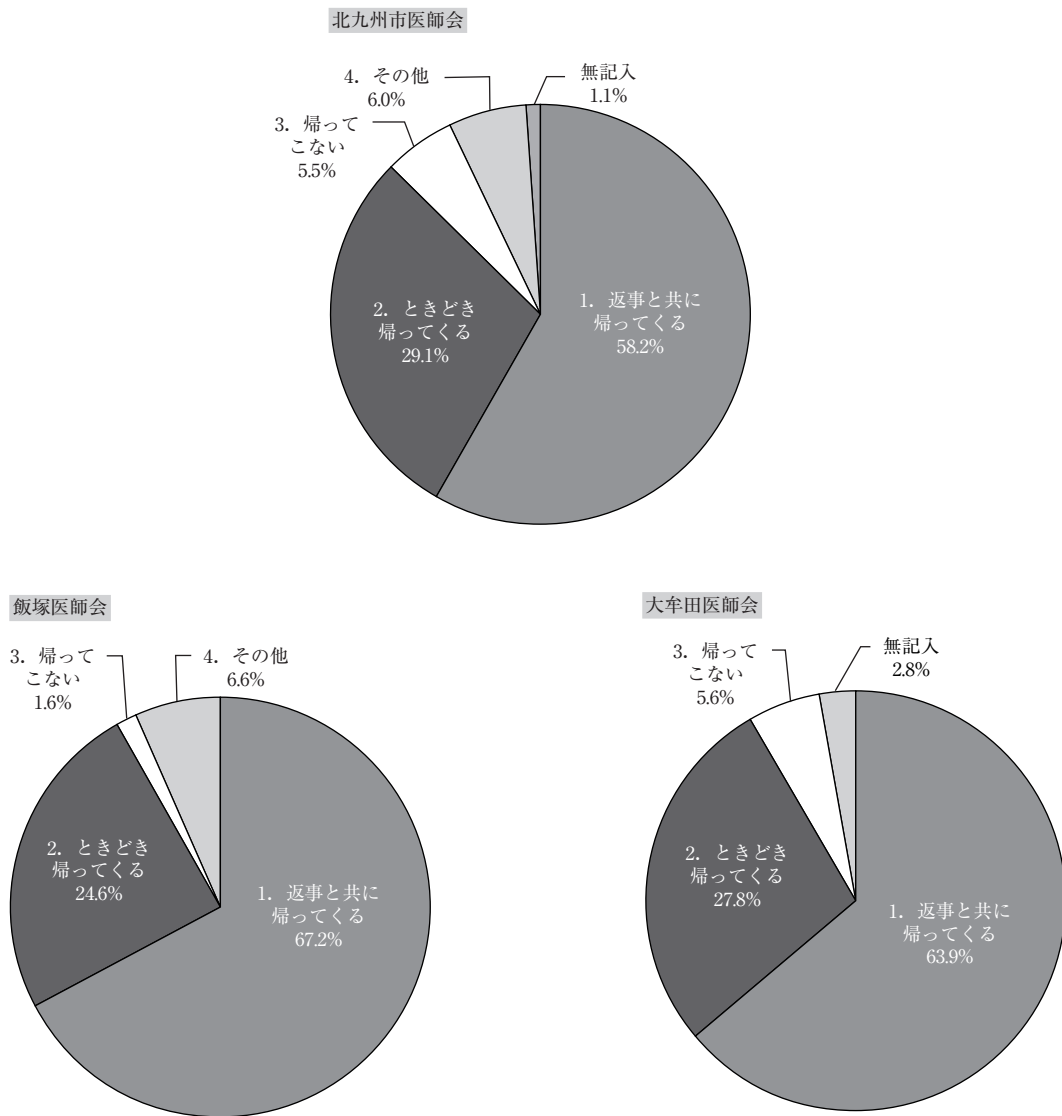


図 6

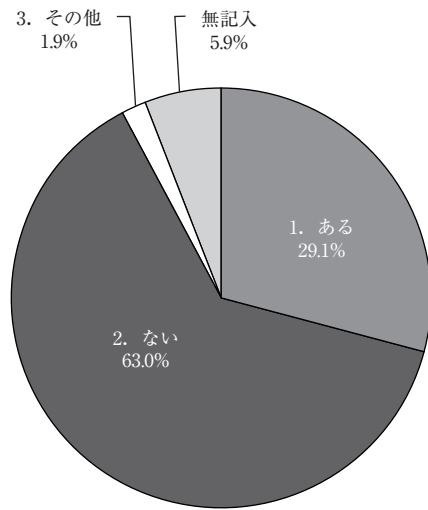


図7 問4. 労災病院からの逆紹介はありますか

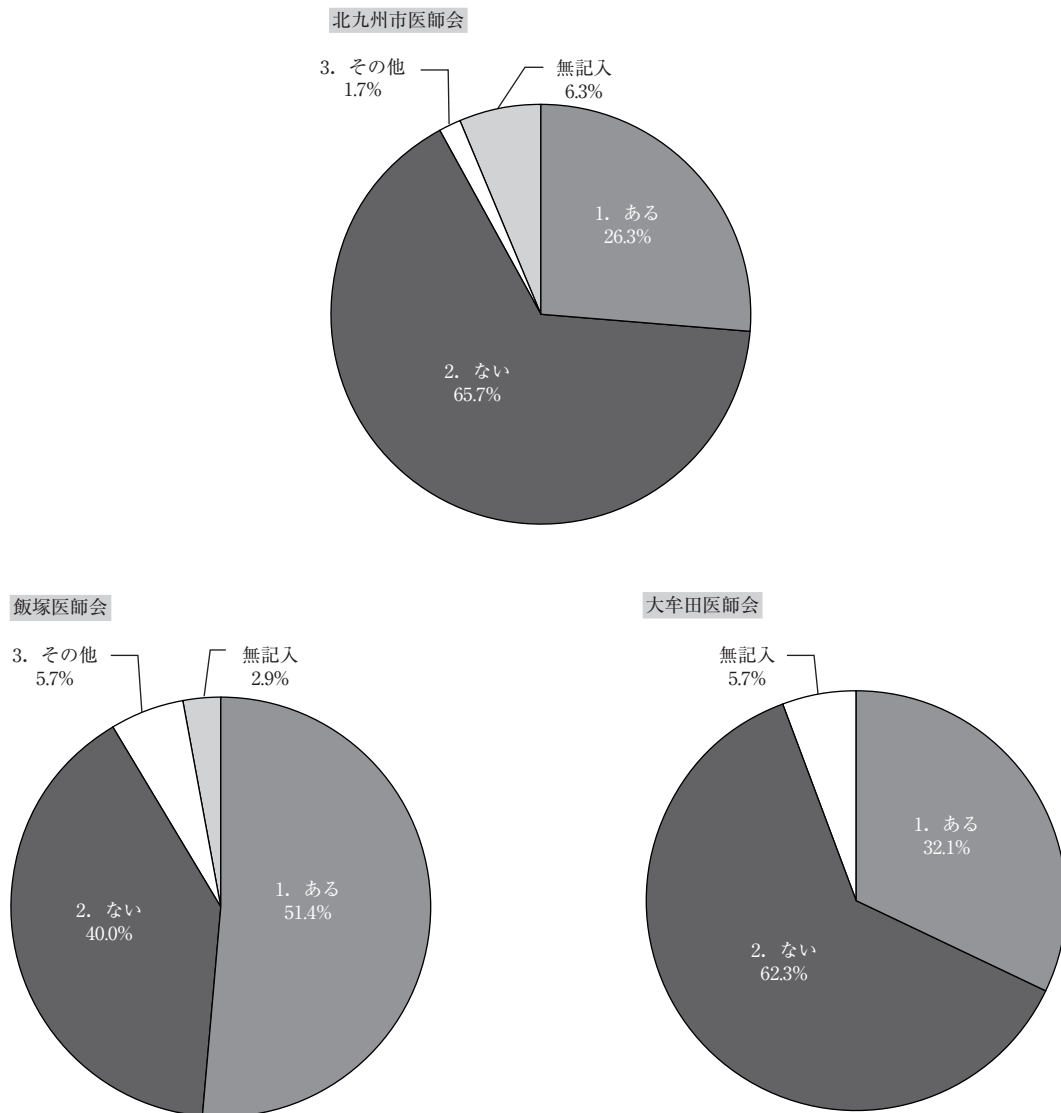


図 8

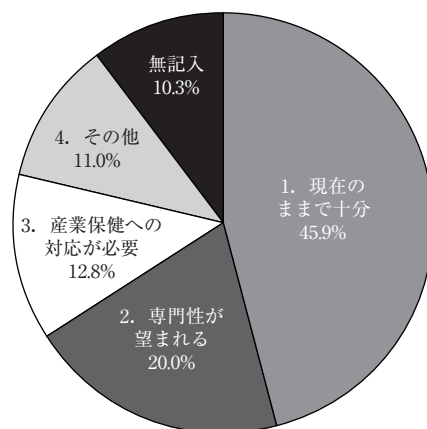


図9 問5. 労災病院の機能について【複数回答】

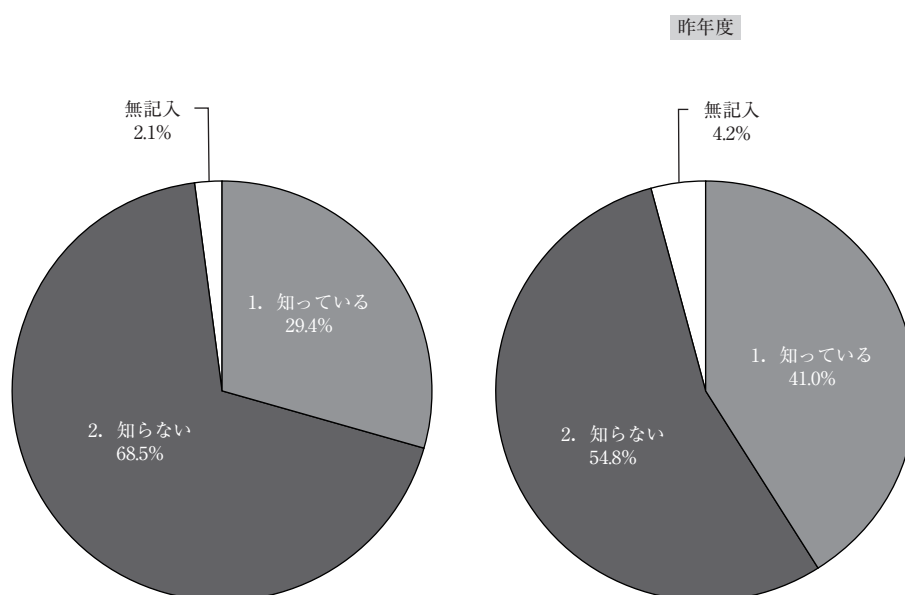


図10 問7. 福岡産業保健推進センターをご存知ですか

いと考えています。

問7の福岡産業保健推進センターをご存じですかに対して、図10・11のような回答となっていて、各医師会でも格差が認められます。ただ、「知らない」との回答の多さに戸惑いを感じます。都道府県産業保健推進センター事業は、産業保健、地域産業保健センターを支援するために設けられ、福岡県でも全国にさきがけ平成5年度に開設されました。推進センターでは広報啓発活動、産業保健相談員による相談事業などで、その存在がもっと知られていると考えていましたが、意外でした。問8、センターを利用した事がありますか？に対して、あるは7件のみでその内4件が電話相談でした（問9）。問10で利用したことがない理由としては、図12のような結果となっています。最後の問11で、労災病院・産業保健推進センターに関する意見、要望に関しては、推進センターの広報が必要14件、労災病院の専門性、特殊性へ

の期待5件、労災病院と開業医の連携4件などがありますが、労災病院は必要ないとの意見が4件ありました。労災病院不要論は、当局の労災事故に対する安全対策や最近の産業構造の変化、長引く不況による製造業の倒産、海外への工場移転などによる労災事故、疾病の減少と労災病院の特殊性が失われているなどの意見がありました。

3. まとめ

産業保健推進センターと労災病院の有機的連携についてのパネルディスカッションのテーマから、労災病院関連の医師会のA会員に対してアンケート調査を行い、五つの労災病院と医師会員の連携は上手く行われているとの結果がでました。労災病院が元々炭坑や荷役作業の行われる港湾での事故に対応するために作られた病院で、前述の産業構造の変革でその役割に改革を求められ

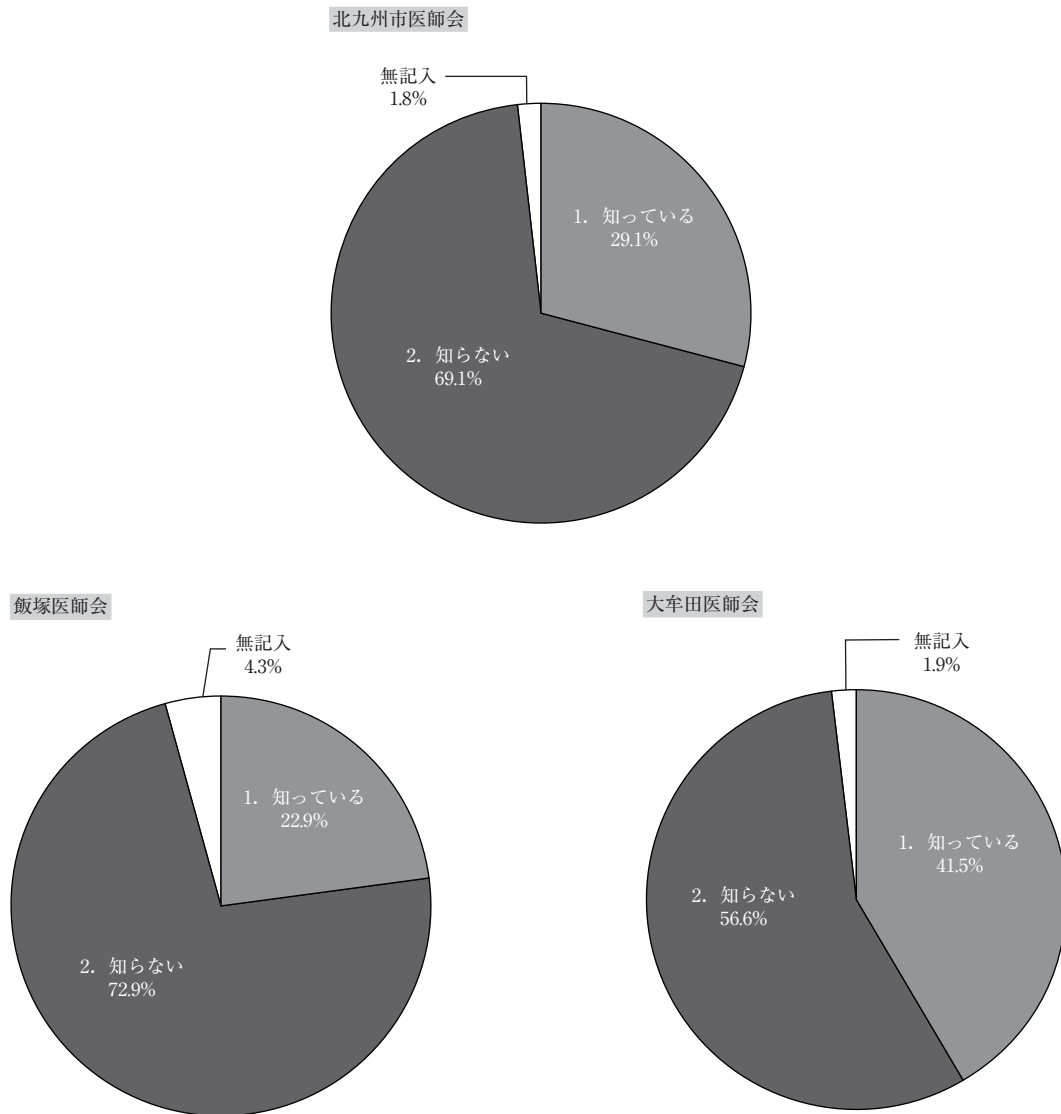


図 11

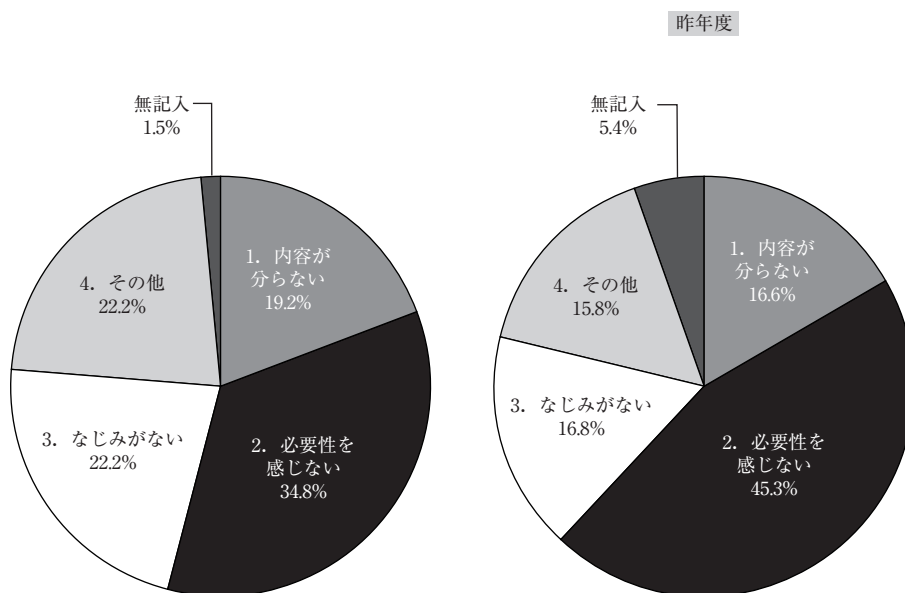


図12 問10. 利用した事がない理由【複数回答】(問8で“2. ない”と回答の場合)

ています。企業健診に関しては、会員との競合も考えられるため、2次健診事業や健診の事後処置に力を入れる事が望まれます。病院の機能としては、開放型病床の設置や産業保健の研修の場の提供、メンタルヘルスへのなお一層の対応が望まれ、病院の広報に更に努力をお願いしたい。福岡県医師会との係わりについては、産業保健の研修会などは産業医科大学にお願いしているため、講演を依頼する機会が少なくなっています。研修会の講師をお願いするためにも、得意分野の情報提供を期待します。

福岡産業保健推進センターに関しては、労災病院との連携をはかるために労災病院等連絡会議要綱にもとずき、連絡会議・分科会等を開催し、産業保健などの情報提供、労災病院が有する勤労者医療情報の収集と分析データ等を活用した研修、事業主セミナーの開催、労災病院に開設された「勤労者心の健康相談」、「勤労者メンタルヘルスセンター」及び「勤労者予防医療センター」の周知や労災病院の医師などを産業保健相談員、研修会の講師とするなどを推進しておられます。アンケート結果を見ますと、推進センターの知名度が低いことが問題に

なりますが、産業保健情報「とびうめ」の発行などと、開設間10年の広報活動が不十分であったとは思われませんが、今後さらなるPRが必要と考えられます。労災病院と推進センターの連携を進めるうえでも広報をひろく行い、その利用を勧めることが大切である事は間違いなくと思います。

最後になりましたが、今回日本職業・災害医学会にパネリストとして参加させて戴きました事と、労災病院と産業保健推進センターのアンケート調査にご協力を戴きました事に関係者各位に感謝申し上げます。

文 献

- 1) 福岡県における産業医活動の実態調査
(原稿受付 平成15.1.31)

別刷請求先 〒830-0017 久留米市日吉町17-18
山岡外科医院
山岡 春夫

Reprint request:

Haruo Yamaoka
Fukuoka Prefectural medical association